

住み慣れた地域で、安心して生活を

船橋市では、全国に先駆けて24時間体制で出勤時から医師が同乗するドクターカーを導入するなど、市医師会をはじめ関係の方々のご協力を得ながら、救急医療体制の充実を図ってきました。その中核を担う市立医療センターは、東葛南部医療圏の救命救急センターとして、心筋梗塞、脳卒中、重症外傷など重篤救急患者の救命に積極的に取り組んでおります。

船橋市立リハビリテーション病院は、この優れた救急医療体制と連携しながら、脳血管疾患などにより身体機能が低下した患者に対して、可能なかぎり早い時点から専門的なリハビリテーションを集中的に行い、身体機能の回復や寝たきり防止、自宅復帰を図ることを目的として設立いたしました。これにより船橋市の地域医療体制は大幅に向上するものと考えております。

当病院は、救急との円滑な連携を図るため市医療センター西側に位置し、リハビリテーション専門病院では全国でもトップクラスの200病床を有しております。また、病院の運営は、公募審査により選ばれた全国でも高い評価を得ている医療法人社団輝生会が担当し、質の高いサービスの提供に努めてまいります。



船橋市長
藤代 孝七

急速な高齢化が進展するなか、リハビリテーション病院を退院して自宅復帰した方が、地域で生き生きとした生活が送れるよう、地域リハビリテーションを推進することが大きな課題となっております。当病院は、院内での治療と共に、市内の地域リハビリテーションの中核となって、地域のかかりつけ医や介護事業所などと緊密な連携をとりながら、その推進を図ってまいります。

船橋市立リハビリテーション病院は、身体機能の低下した一人でも多くの方を自宅へ復帰させ、住み慣れた地域で明るく生活できるようにすることを目指しており、医療センターとともに本市が目指す「生き生きとしたふれあいの都市」を実現する大きな柱となることを期待しております。



船橋市立
リハビリテーション病院
指定管理者代表
医療法人社団輝生会理事長
石川 誠

かつて、高齢になると脳卒中や骨折などにより「寝たきり」となる確率が極めて高い時代が続いていました。リハビリテーション（以下リハと略す）医療の提供体制が十分に整備されていなかったからです。

最近のリハ医療は、時期に応じ、急性期病院で発症早期から実施する急性期リハ、病状の安定期に回復期リハ病棟で集中的に実施する回復期リハ、慢性期に通所や訪問、短期入所等による維持期リハに区分がされています。これら急性期リハ・回復期リハ・維持期リハを担う三種類の施設が各地域に適切に整備され、各施設がその役割を全うし、十分に連携することで「寝たきり」の発生を抑制できることがわかってきました。

ところが我が国の大部分の地域では、急性期病院のリハ機能は乏しく、回復期リハ病棟は質量ともに未整備状態であり、維持期リハの機能も十分とはいえません。

特に回復期リハ病棟は、人口10万人あたり50床以上の整備が必要といわれていますが、平成20年3月の時点で全国平均が33床であり、千葉県は東京都とともに18床と全国最低となっています。しかし、船橋市立リハビリテーション病院の開設により、船橋市における回復期リハ病棟は、目標とする人口10万人あたり50床程度の整備となります。

船橋市立リハビリテーション病院には他のリハ病院とは異なるいくつかの特徴があります。第一の特徴は、船橋市立医療センターの真向かいに位置し、急性期医療と強力な連携が可能な点です。より早期から集中的リハを開始するためです。第二の特徴は、リハ病院設立が船橋市医師会から起案された点です。このことからリハ病院と地域の「かかりつけ医」との良好な連携が十分に期待できます。すなわち急性期、回復期、維持期へ切れ目なく継続したリハの提供が可能となるのです。第三の特徴は、公設民営である点です。公設のリハ病院の指定管理者に民間医療法人が起用されるのは全国初めてであり、注目されていると聞いております。

当医療法人輝生会は、船橋市民の皆様の期待に応え、最善のリハ医療サービスを提供すべく粉骨砕身の努力をする所存です。市民から愛されるリハ病院として何卒よろしくお願い申し上げます。